

Desert Wind (No. 16)

Las Vegas Japanese Community Church

MARCH 2008

『わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる』(イザヤ 43:19)

編集：平山未樹

『土の器の中にある宝』

LVJCC 牧師 鶴田健次

『わたしたちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであって、わたしたちから出たものではないことが、あらわれるためである』(IIコリント4:7)

聖書は、私たち人間を『土の器』と呼んでいます。これは、私たちのもろくて壊れやすい性質を表わしている言葉です。誰かが言った一言に、また誰かが取った一つの態度に一喜一憂してしまう、そんな弱さを人間は持っているものです。また、『人は土の器である』という人間理解は、自分という土の器の中に何を入れるかで私たちの人生が決まるということを示唆します。良い考えを入れるか、悪い考えを入れるかで、人生は大きく分かります。どういう人生観、世界観、価値観を入れるかで、人生の進路が決まります。パウロは、私たちはこの宝を土の器の中に持っていると言いましたが、この『宝』とはイエス・キリストのことです。そして、この宝は、私たちに様々な祝福をもたらします。

まず、第一の祝福は永遠の命です。私たちは、イエス・キリストを信じる信仰によって神の子とされ、永遠の天国を相続する特権が与えられます。ですから、生きている間にイエス・キリストという宝をこの土の器の中に持つことは、人生の最重要課題です。もしこの宝によって永

遠の命を持つなら、たとえこの世の人生が10年であろうが、30年、60年、100年であろうが、究極的には同じであるという世界がそこに開かれていくのです。

次に、この宝がもたらす第二の祝福は、倒れても立ち上がる人生が与えられるということです。「病床は人間最大の学校である」と言われます。また、「寒さに震えた者ほど、太陽の暖かさを知る。人生の悩みをくぐった者ほど、生命の尊さを知る。」とは、ホイットマンの言葉です。重い病気にかかると、人生が暗いものに思われてきて、何かにつけ悲観的になりやすいものです。私たちは、元気で調子がいい時は、何でも自分の力で出来るような気がしますが、病気になると、別人のように弱気になってしまいます。それが人間の正直な姿です。ところが、イエス・キリストという宝をこの土の器の中に持つとき、絶望と逆境と孤独の中にも人生の真実を見出し、誰の目にも再起不能としか映らなかった試練の中で立ち上がり、人生の行き詰まりを新しい人生の幕開けとすることが出来るのです。

最後に、この宝がもたらす第三の祝福は、私たちに人生に対する新しい解釈が与えられるということです。この宝を土の器の中に持つ人生、つまりキリストと共に生きる人生は、問題だらけの世界に住みながら、同時に神の支配に生きる人生です。ですから、私たちは、四方か

ら患難を受けても窮せず、途方に暮れる事があっても行き詰ることがありません。なぜなら、そこには物事に対する新しい解釈、永遠の視点から見た神の国の解釈が与えられるからです。星野富弘さんの詩に「つばき」という、こんな詩があります。

木は自分で動きまわることができない
神様に与えられたその場所で
精一杯枝を張り、許された高さまで、
一生懸命伸びようとしている
そんな木を、私は友達のように思っている

首から下が全く動かなくなり、自分にはなく神様に望みを置くようになって初めて見えてきた人生に対する新しい解釈です。そして、それを詩に表わすことで、何百万人もの人々に力と勇気と励ましを与える生き方を得たのです。

将棋に勝つのは、将棋の駒が立派だからではなく、差し手が強いからです。たとえ紙でできた将棋の駒でも、将棋の名人は、その駒を使って、誰とどんな勝負をしても必ず勝つのです。私たちはいわば将棋の駒です。大切なことは、名人である神様の言われるとおりに生きることです。そうすれば必ず勝利が与えられるのです。

証し

以津子ハバード

私の父は大阪の人。明治末期の生まれなのに、今の大学を出ている。何故か東京外語。ドストエフスキーに傾倒していたのでロシア語科。近くにニコライ堂とかがあって、時々行ったとのこと。そのせいか、広島に養子に来て、最初に来た子供の私を早々と女学院の幼稚園に入れた。近所に支部が出来るまでしばらく一人で市電を乗り継いで通った。小さかったので、その頃の思い出というクリスマス・イエスキリストの降誕劇で羊になって床を這い回った事位しか覚えていない。

高校を終える頃、母の反対を押し切って進学を決めたものの、理数科に弱い為、広島大学は諦め、やむなく女学院の英米文学科に入った。チャペルで始まり、必須の聖書を学び、多くのアメリカ人宣教師達に囲まれた。ミッションスクールに慣れた2年生の時、これまた数学に弱い父が騙されて倒産、おまけに離婚という一大事件が起きた。仕方が無いので就職することに決めたが、学校から奨学金が出るということで、家庭教師の仕事を見つけてもらい、夏休みはアルバイトをして、無事卒業証書を手に入れる事が出来た。

卒業後は市内に教師の口がなく、諦めて岩国の米軍基地に入る。その頃はメリーランド大学が海外の吉に夜間のコース開いていた。仕事に慣れた頃、講師の応募があり、初級の日本語講師に応募。一週間の特訓、教え方のデモンストレーションを学び、他の3人の候補者を押さえて選ばれ、オフィスと夜学の講師という二足の草鞋を履く生活が始まった。この時も女学院の先生方が推薦状をメリーランド大学に送って下さったお陰で、Community Collegeで教える事が出来た。やむなく行った女学院なのに、本当にお世話になり感謝している。

幼稚園と大学。何かとご縁があった女学院だったが、教会にも行かずクリスチャンにもならなかった。実は在学中、或期末試験で、生え抜きの女学院生が2、3人でカンニングをしているのを見つけた。「何が教会よ！何がクリスチャンよ！偽善者！」と思ってクリスチャンを嫌いになり、そのまま神に背を向けて人生の大半を過ごしてしまった。

1983年遅蒔きながら Vern と日本で結婚。翌春、アメリカに来て第二の人生を始める。カリフォルニアで働いた後、二人で早期退職をして、1993年にラスベガスに落ち着いた。ご近所に熱心なカソリック信者の貞江さんがいて、おでんパーティーに呼んでくださり、そこで初めて鶴田先生ご夫妻、ユキ Montgomery さんともお会いした。2002年の2月のことだった。鶴田先生が、未だカリフォルニアから毎週ラスベガスに通われて、聖書クラスを持っておられた頃であった。聖書クラスに折角誘って下さったのに行こうともしないまま、月日が経ち、2004年の7月にはユキさんが半ば強引に教会に連れて行って下さった。何度か通った頃、私の家に忘れ物をした友人を追いかけ家を飛び出し、坂になっている Drive Way でつんのめり、顔を擦りむき左の薬指を骨折した。ユキさんに教会に行けないと電話をしたら、主人が留守だったこともあり、「大変ですね、皿洗いでも何でもします」と言ってお下り、医者にも連れて行って下さり本当に助かった。当時麻雀をしていたので、麻雀のグループの人にも同じ様に連絡をした所、人数が足りないからどうしても、と言われ、仕方なく片手で付き合った。不自由か、とか、何かしようと言った人は一人も居なかった。その時初めて、クリスチャンは違う、どうして違うんだろうと思って、今迄背を向けていた教会へ毎週通うようになった。

しばらくして、鶴田先生から初心者クラスを勧められ、近所に移って来られた高崎和子さんに付き合ってもらい、聖書の勉強を始めた。処女懐妊とか、死から復活とか、そんな事がある筈がないと思っていたが、先生のお話を聞いて、自分の限られた知識や常識などで、神様のなされた事を理解しようとしたのが間違っていたのに気がついた。人間はアダムとイヴ以来、生まれつき罪(Sin)を持っているので、いわゆる聖人君子といえども人間は人類を永遠の滅びから救うことは出来ない。神様は汚れのない処女の身体を通して御子イエスキリストをこの世に送って下さり、この御子を信じるといふ信仰によって私達の罪が赦されるという救いの道を開いて下さったのだ!! 目から鱗の取れた私は、2004年12月19日にバプテスマを受け、クリスチャンになり、教会の一員となる。思えば長い道であった。

<続く>

案内・ニュース

- ・ 2月12日の大川従道牧師の特別集会は平日にもかかわらず、59名の方々がいらっしゃいました。宣教のスピリットに満ち溢れる力強いメッセージをいただき、一同が大きな励ましをいただきました。
- ・ 去る2月19日、鶴田潤子姉のお父様が95歳の長寿を全うし天に召されました。鶴田牧師夫妻は25日の告別式に出席し、無事ラスベガスに戻られました。
- ・ 3月2日の礼拝に、キャンパス・クルセードのスタッフが日本からの10名の大学生(未信者)を連れて来られます。彼らにキリストの福音が届けられますように。
- ・ 3月9日の礼拝は稲葉寛夫先生をお迎えし、聖書のメッセージを取り継いでいただきます。
- ・ 3月17日(月)は午後6時から11時まで特別祈禱会がもたれます。
- ・ 3月23日はイースター礼拝です。主の復活を心からお祝いしましょう。なお、この日は洗礼式がもたれます。

DREAMS COME TRUE

- ☪ 教会堂の建設
- ☪ 敬老ホームの設立
- ☪ 幼稚園の設立

